

明けましておめでとうございませう。本年もどうぞよろしくお願ひします。

去年はけっこう厳しい年でしたね。

二十一世紀まであと五年。頑張って前進しましょう。前進するんだから前（未来）を見ましょうよ。時々バックミラーで辛かった後を振り返るのも大事だけど、前に進むんだから前を見ましょう。辛かった過去はどんどん小さくなっていくから。

春・初夏物展 二ホム

一月二十三日(火)～二十六日(金)

当社にて開催

「いまだ春物・初夏物展示会なんてもう遅いよ、変わった奴だなあ」といわれるかも知れませぬ。

でもこの頃はけっこう変わった奴のところに、思いがけない面白いもの、いい話があるもんです。

今までの常識がどんどん変わっている時代ですから。

今年も新しいことにどんどんチャレンジします。

今回の特徴は何といっても素材。


ハイゲージ一辺倒から糸自身に表情のあるミックスタイプに変わってきました。

絵型だけでは、一見今までのと変わらないように見えますが実は・・・。

やっとニットならではの表現が新鮮になって来ましたね。

春・初夏物展お薦め best-3


6色展開
白、オフ、ベージュ、ブラウン、イエロー、パープル



綿・麻・レーヨンのミックス糸を使ったVセーター。まだまだ愛用者が多いロング丈。各々糸の特徴が良く出た糸です。こんなミックスのいい糸を作れる職人が少ないのが残念です。

NO. 1650 C50%, L30%, Ry20%
上代 ¥19,800 7ゲージ 天竺


5色展開
オフ、ピンク、うす茶、グレイ、ブラック



レーヨン・ナイロンの強染糸(エボナ)使用。今年最も注目の糸の一つです。暑くなってもべつつかないサラサラ感が特徴。2×1リブで盛夏まで着用できる10ゲージヤングからアダルトまで多様です。新素材にしてはリーズナブルです。

NO. 1606 Ry75%, Ny25%
上代 ¥14,800

10色展開
オフ、グレイ、ゴールド、グリーン、ブルー、パープル、ピンク、コン、チャコール、ブラウン、



今一番の注目アイテムのアンサンブルをレーヨン100%で作りました。軽い高級なレーヨン糸ながらブライスカGOODです。

NO. 1643 Ry100%
上代 ¥19,800

いろいろな素材を提案します。変わった奴の、変わった展示会。見てのお楽しみです。 請う御期待!



南青山境界

年の瀬になるとベートーベンの「交響曲第九番」、年が明けるとドボルザークの「交響曲第八番」。新世界がよく演奏され、このパターンがすっかり定着したようです。

たまにはよそ行きの気分で、一流のコンサート・ホールでクラシックなんかを聴くのもいいもんです。この非日常の時間と緊張感が気に入っています。

月に度々というわけではありませんが、私が気に入っているのはサントリー・ホールです。

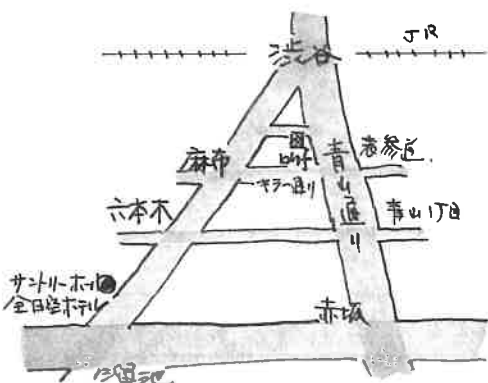
プロではないので専門的なことは知りませんが、クラシックの演奏会を目的に作られたホールだろうで、大きさ、音響、雰囲気などシックリくるように好まれます。

日本フィルハーモニー交響楽団の本拠地です。

かなり大きなホールですが、小さな音でもどこの人が演奏しているのか、今どの楽器から音が出ているのか、目からも音が伝わってきて、それこそ体中で音楽を体感することができるようになります。



でもオーケストラのチケットはちょっと高いです。だからちゃんとチケットをとって聴くのはたまにだけ、ほとんどは行き当たりばったりです。狙い目はオーケストラの後ろ、パイプオルガンの前の一番安い席です。当日でもだいたい買えるし、どうしてここが一番安いんだろうと不思議です。





みんな一緒は
ごかんべん

そんな気はさらさらなのに、知らなかった為
に相手を困らせてしまったり、思わぬ体験でその
國の習慣や考え方の違いを知ることがあります。

添乗員の駆け出しの頃、オーストリアのある小
さな町でのことです。

自由行動でお昼時でした。
皆バラバラに行動していたんですが、小さい街の
こと途中で次々に会って、結局二十人ぐらいで
一緒にお昼を食べることになりました。

早速注文。たまたま私が「これにする」と決め
たら、それなら皆同じでいいということでもとま
りました。日本人にはよくあるパターンです。
するとオーナーシェフが飛んできて、「今日は
これが美味しいよ」、「これは絶対お勧め」とい
ろいろ勧めてくれるんです。

あまりにご主人が熱心に勧めてくれるので、その
うちに「じゃあ、俺はこれ」、「私はこれを食べ
てみようかな」と言いつつ異合に、遠慮なく自分の食
べたいものを注文しました。

予想した以上の料理で大満足した人。自分が想
像した料理じゃなかった人も、新鮮なチャレンジ
をそれなりに楽しんで、とってもいい食事ができ
ました。

食事が終わって、出てきたご主人の感想に改め
て欧米との考え方の違いを再認識しました。

日本人のお客様は初めてだけど、二十人もの人
が同じものを食べたいということにビックリして、

どうしても信じられなかったそうです。

宴会なら別だけど二十人分の食事をいっぺんに料
理するだけの設備はないし困ってしまっていて飛び出
してきたそうです。

でもこちらとしては、『みんなバラバラだった
ら大変だろうから同じでいいや、一緒の方が料理
を作る方にとっても都合がいいだろう』という一
種の思いやりや遠慮が入っているんです。

考え方や好みが基本的にみんな一緒というこ
ろからスタートして、少々の自我は我慢して『和』
を保とうとする我々と、人間一人一人違っている
だからその違いを知ってその違いを尊重して伸ば
そうとする。

どちらにも一長一短ありと思いますが、この違
いが面白かったり悲劇を生んだりするんですね。

海外に出るとよく聞かれますね。

コーヒーにしますか？紅茶にしますか？砂糖は？
ミルクは？

日本は黙っていても冬はあつーいお茶や、暑い夏
ならよく冷えた麦茶。

この以心伝心の心地好き。でも知らない人や苦手
な人はビックリするかも。



水のみ話

ニットになる前は
海外旅行の添乗員でした
チャンスがあったら
是非お読み

マレーシア
キヤメロンハイランド

高原リゾートは蝶の宝庫



バリ島やブーケット島、ベナ
ン島、セブ島等々南アジアの海の
リゾートが注目されています。
近年は素晴らしい施設のホテル
が次々と建てられ、短時間で行
けて異文化に触れられる。エス
ニックな料理にも人気があり、しかも物価も安く手
軽と言つことで人気がありますね。

でも私にとって南アジアといえば、猛烈な暑さと
湿気、うっそうとしたジャングル。中学校の地理で
教わった『熱帯雨林気候』。これが私が連想する南
アジア感なんです。

南アジア一帯は都市や耕地以外はジャングルだら
けと思うんですが、いざ熱帯のジャングルを体験し
たいと思ってもなかなか簡単ではないんですね。
『うっそうと茂る熱帯のジャングルの中を、ヒルに
血を吸われながら、道なき道を歩くこと丸一日』な
んていっても普通の人にはちょっと無理です。ね。

探検家じゃないんだから。

本物の自然の厳しさは分かっているつもりだけど、
なんとか熱帯のジャングルを体験してみたい（本音
は蝶）、そんな素人の私の好奇心を満足させてくれ
たのがマレーシアのキヤメロン・ハイランドでした。

マレーシアの首都クアラルンプールから細長いマ
レー半島を北へ向かって約二時間半。

キヤメロンハイランドという避暑地は主にイギリス
人達が開発した、高原の高級リゾートとして有名な
ところなんです。現地滞在の日本人からは、マレー
シアの軽井沢と呼ばれているそうです。

熱帯の中での高原は、平地が暑い分、高原の涼風が
とってもさわやかなんです。

我田引水になります。蝶を好きな人にとっては、
ここマレーシアのキヤメロン・ハイランドは、南米
のアマゾン河流域や台湾の埔里（プーリー）などと
共に世界的に有名なところなんです。
今では探検禁止になってしまつたんですが、ここには
マレーシアの国蝶であるアカエリ・トリバナエゲ
ハというのがあります。

この蝶は、羽を広げると20cmもある大型の蝶で、
鮮やかなグリーンに黒の縁取り、襟には真っ赤なス
カーフをしているんです。

こいつがジャングルの上を悠々と滑空している姿を
見たら、思わず拍手したくなるほどです。

その他、希少な蝶のネットイミドリシジミ等など、
名前を上げたらきりがなく蝶の種類が多く、世
界の蝶マニアの憧れのところなんです。

蝶に興味がない人でも、こここのジャングルツアー
・コースはかなり整備されていて、結構安全にジャ
ングルを体験できます。

美しい花々に囲まれたスコットランドを思わせるホ
テルです。こしたり、深い緑と広々としたゴルフ場
のんびりブレイしたり、散歩したり。

熱帯の強烈な暑さを忘れさせてくれる、お薦めのリ
ゾートです。

ペナンやシンガポール等と一緒に組み込んだら面
白い旅になると思うんですが。

うと

